

苦しんで苦しんで  
ようやくつかんだ大阪切符

駒澤大学 4-1 東京国際大学

ダメ押し弾で、相手を突き放した若山  
(撮影: 藤原菜摘)

6月4日 11:30 時之栖スポーツセンター

駒大 4 (0-0) 1 東国大  
(4-1)

得点者(アシスト)

[駒]62分山本(碓井) [東]77分阿部(三橋)  
[駒]70分宮城(湯澤)  
[駒]82分湯澤(小牧)  
[駒]83分若山(碓井)

KOMAZAWA

GK①大石健太(3)  
DF⑤柳川剛輝(1)  
DF④三澤祥馬(4)  
DF⑬平尾優頼(2)  
DF③田中雄一(3)  
MF⑥若山瞭太(3)  
MF⑧碓井鉄平(3)  
MF⑰平野篤志(1)  
(55分)⑩小牧成亘(2)  
MF⑩湯澤洋介(4)  
(86分)⑭中村 駿(1)  
MF⑨山本大貴(3)  
FW⑤宮城雅史(4)  
(71分)⑯小牟田洋佑(2)

S U B

GK⑭積田景介(1)  
DF③川岸裕輔(2)  
DF⑬大木 暁(2)  
MF⑳荒井裕介(4)

MANAGER

秋田浩一

TOKYOKOKUSAI

GK⑫上平雄二郎(2)  
DF②安藤基司(4)  
DF③阿部正紀(3)  
DF⑫三橋 瑛(3)  
DF⑥鹿糠智正(3)  
(71分)⑦上船利徳(2)  
MF⑦瀬野高司(4)  
(84分)⑩岩井雄大(4)  
MF⑱若井祥吾(2)  
MF⑪高橋明嗣(3)  
MF⑰小玉敏之(2)  
(54分)⑳本田健太(2)  
FW⑭河村誠也(4)  
FW⑨福島 遼(2)

S U B

GK⑳今野太祐(2)  
DF⑫加藤龍治(2)  
MF⑱相原敬亮(1)  
FW⑯清水瑞翔(3)

MANAGER

前田秀樹

[シュート]8:7 [GK]9:6 [CK]8:2 [直接FK]16:20  
[間接FK]1:3 [主審]赤坂 修 [観衆]約 30人

警告(C)/退場(S)

[駒]田中雄一(C) [東]本田健太(C)  
[駒]山本大貴(C)

※データの左側が駒大

歓喜の輪

昨年は本戦出場一步手前で悔し涙を流した。選手たちの意気込みは強かっただろう。しかし、勝ちが絶対条件の試合で、駒大の選手は立ち上がり固さを見せる。不用意なパスミスが目立ち、東国大にミドルシュートを打たれると、7分にはペナルティエリア内で決定的な場面を作られてしまう。しかしこのシュートが外れると、徐々に落ち着いた試合展開となる。

攻めていきたい駒大だったが、平野、湯澤のドリブル突破が不発。サイドからチャンスを作れないことで、シュートまでいけない時間が続いた。それでもセットプレーから得点機を作ると、35分にはフリーキックのこぼれ球を押し込む。ゴールネットを揺らしたが、直前にファウルの判定、ゴールは幻と消えた。前半は単発な攻撃でシュートはわずか 2 本。何とか無失点で後半へ折り返す。

後半に入ると応援が始まり、その効果もあってかペースは一転駒大へ。前線からのハイプレス、得意のサイドアタックでチャンスをつかむ。歓喜の瞬間は 62 分だった。右サイドからのスローイン。宮城が頭ですらしたボールを山本が拾うとドリブル、ディフェンダーを

引き連れながら豪快に左足を振りぬく。「練習していたので入って良かった」と振り返る会心のシュートが決まり先制した。その後も立て続けにチャンスを作ると 70 分、追加点が生まれる。カウンターから湯澤が山本にボールを預けて縦へ走る。リターンパスを受けると、左サイドをドリブ突破。低く速いクロスに途中出場の小牧が前で潰れ、ファーサイドから宮城が飛び込んでゴールを決めた。自らネットに突っ込む気合の得点で、東国大を突き放した。

その後コーナーキックから失点するが、82 分には湯澤が決めて勝利を確実なものにすると、83 分には若山がダメ押しゴール。駒大ベンチでは歓喜の輪が出来ていた。

終わってみれば 4-1 の快勝も、格下相手に苦しめられた。それでもつかんだ全国への切符。湯澤は「去年出られなかった舞台なので、2 年前の優勝を目標に」と話すが、ようやくスタートラインに立った。

連戦は続き、次は 1 部で首位を走る中大戦。今季初めて 1 部と対戦することで、全国大会の試金石となるだろう。

現在公式戦は 6 連勝中。本戦まで残り 1 か月、アミノバイタルカップ、リーグ戦と連勝街道を突っ走り、目標とする大臣杯優勝まで旋風を巻き起こしてほしい。(森下和貴)